

2014.3 No. 27



佐賀大学病院ニュース

患者・医師に選ばれる病院を目指して News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

北病棟・南診療棟へ 移転して

昨年末、念願の南診療棟へ移転しました。救急車出入口は広々とした搬入スペースがあり、患者さんが搬送されると、手術室も併設した救急初療室で治療が行われます。待合室は、医療用配管の設置や簡易ベッドになる待合椅子など、災害時にも対応できる環境が整備されました。

新棟1階は、白を基調とした広々とした明るいフロアで、中央のカウンターステーションを中心として24床の緊急入院に対応するECUがあります。6床のオープン病床と熱傷ベッドを完備した個室や重症感染症に対応できる病室等多様な病床が完備され、救急車で搬送された患者さんを初療室での治療から入院まで一貫して同じフロアで診療できるように、患者さんにとっても医療者にとっても恵まれた環境になりました。

2階フロアは重症患者さんだけを管理し、新設されたEICU(6床)、増床されたICU・CCU(10床)

本院は、平成25年12月20日に北病棟及び南診療棟、診療支援棟の竣工記念式を行い、12月30日に、新病棟への移転を終えました。



▲竣工記念式典 テープカットの様子

3D内視鏡手術室の紹介

平成26年1月より稼働中の新手術部に新設された3D内視鏡手術室を紹介いたします。当手術室は、めざましい発展と普及を見せる体腔鏡手術はもろろんのこと、本院が推進するロボット支援手術にも対応できるように設計された手術室です。

特記すべきことは、まず3D対応の大型32インチの液晶モニター3枚が天井吊りアームに設置されています。大型の3Dモニターは設置はわが国初の設備です。また手術室の照明をシーンに合わせて変更することが可能です。患者さん入室の際には、暖色系にすることで、患者さんの不安軽減につながると期待できます。さらに、手術が始まると、部屋全体を青色に変えています。こうしたことで、大型モニターの効果も相



救命救急センター
看護師長 原田由美子

からなり、超重症の患者さんを専門の医療チームが管理することにより、緊急入院後の管理、3階で手術を受けた患者さんの管理などが南診療棟で一貫してできるようにになりました。

旧病棟では設備や物品不足で不自由することも多くありましたが、新棟ではこれらの問題はすべて解消されました。この素晴らしい環境で働く私たちは、今後この設備に負けない質の高い医療・看護を提供できるようにしていくことが課題です。



▲ECU カウンターステーションとオープン病床



▲救命救急センター 待合室

一般・消化器外科
教授 能城 浩和



まっ、手術映像に対する没入感がうま、通常照明下では認識することができなかつた微細構造の認知につながり、より精緻な手術手技が可能になると期待されています。

他施設からの見学者も「想像以上に映像が浮き上がって、細かいところまでくつきりと見えますね」と驚かれています。

また、これらの照明、映像や内視鏡関連機器の設定を手術室式別にあらかじめ行っておけば、そのシーンに応じて、コントロールが可能になっています。つまり、患者さん入室からポート挿入、気腹開始・停止、標本摘出、閉創まで、それぞれの術式やシーンに応じた適切な設定に瞬時に切り替わりやす。これにより、外回り看護師の負担軽減、手術時間の短縮につながるものと期待しています。



▲暖色系照明時の手術室の様子

佐賀県ドクターヘリコプターの 運航を開始しました

救命救急センター
教授 阪本雄一郎



平成26年1月17日、おそらく佐賀県の救急医の多くが望んでいたと思われる佐賀県独自のD r.ヘリコプターの運航がスタートいたしました。県内全てを15分以内にカバーでき、フライトドクター、フライトナースを現場に投入することによって迅速に急性期治療を開始することのメリットは、認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワークの調査によると従来の地上救急に比べ救命率が3割以上向上すると言われております。

治療開始までの時間短縮による効果に加え、D r.ヘリコプター事業は地域の医療体制を劇的に向上させる効果があると考えられます。佐賀県はこれまで経費とのバランスから福岡県および長崎県のD r.ヘリコプター共同事業によって救急医療体制を構築している先進的な地域であります。しかし、近年福岡、長崎両県の要請件数、佐賀県の要請件数も増加しており、今後重複要請による出動不可事案が増えると思われ、絶妙なタイミングでの独自運航の開始であると思えます。また、運航検討時から県下の4つの救命救急センター、行政、医師会、消防機関などが一体となり準備を進めていただいたおかげで、救急医療に携わる現場のヒューマンネットワークも強固なものになり、まさしく地域の救急医療体制を激変させるきっかけになったのではないかと思います。

実際に運航開始より1か月半で約30件の要請があり、その6割を外傷が占めております。D r.ヘリコプターのメリットは、迅速な機動力を駆使することにより、診療開始時間を短縮することであり、例えば佐賀で多い農道での事故では、状況が可能であれば現場近くの農道に着陸するなどして、1秒でも早く現場に行き、的確な処置を行うよう心がけております。



▲屋上ヘリポートから佐賀市内を臨む



▲地上ヘリポートとヘリコプター格納庫

フライトドクター・ナース募集!!



▲1月17日 就航記念式典の様子



▲屋上ヘリポートに着陸するドクターヘリ

北病棟・南診療棟へ移転して

原田由美子

3D内視鏡手術室の紹介

能城 浩和

佐賀県ドクターヘリコプターの運航を開始しました

阪本雄一郎

診療科紹介

一般・消化器外科

診療科長
能城 浩和



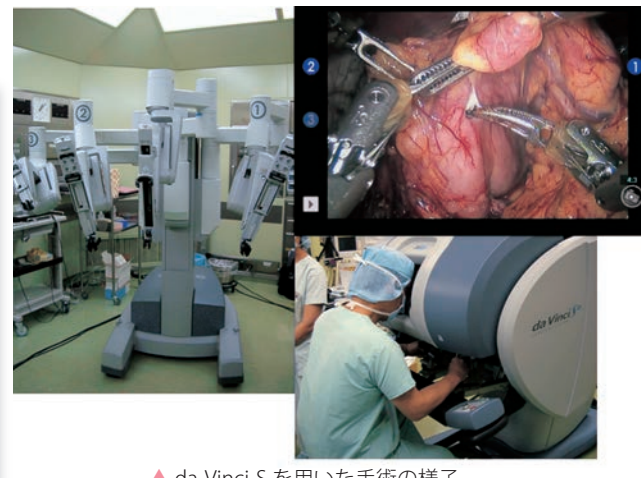
一般・消化器外科では主に消化器および乳腺悪性腫瘍の患者さんを対象として診療しています。

能城浩和教授が着任して以来、「体に優しい」低侵襲で根治性の高い鏡視下手術を積極的にに行い、消化器外科全般において全国でもトップクラスの鏡視下手術を実践しています。例えば、食道癌では開胸をせず食道切除を腹臥位という特殊な体位で胸腔鏡下に行っています。様々な胃癌の切除術式全てを腹腔鏡下に行い、大腸・直腸癌も同様に一般的に行われている術式は全て腹腔鏡下に行います。ま

た、肝切除や脾切除も積極的に腹腔鏡下手術を導入しております。

さらにはロボット支援手術（da Vinci surgery）を全国国立大学の中で最も早く導入し、さらに昨年にバージョンアップされたda Vinci Siも導入し、画質および操作性の向上により、さらに安心、安全で根治性の高い手術を提供しております。このda Vinci Siの最大の特徴は、Surgeon consoleが2台となったことで、術者2人が同じ画像を見ながら手術を行うことが可能となりました。術者のとなりで、術者と全く同じ三次元画像を見ることができ、「まるで自分が手術をしているかのよう」と学生や若手医師からも高く評価されており、術者養成だけでなく、医学・研修医教育等に対しても革新的な進歩が期待できます。このようなロボット支援手術をこれまでに60例以上行ってきた。これらは一般医療の範疇を越え、自由診療や先進医療といった幅広い

高度な医療を提供しています。一方で、一般・消化器外科では腫瘍制御に関する基礎研究も行っており、腫瘍の悪性度診断、浸潤転移機構の解明および抗癌剤感受性（個別化治療）などについての研究も精力的に行っています。



▲ da Vinci S を用いた手術の様子

ています。今後も、佐賀県内だけに留まらず、わが国の医療を牽引、進歩させ、患者さんおよび社会に貢献できるよう、教員一丸となって日々精進してまいります。（文責 助教 井手貴雄）



▲ da Vinci Si を用いた手術の様子

連携病院紹介

医療法人敬愛会 佐賀記念病院

院長
吉原幸治郎

【病院の紹介】
佐賀記念病院は昭和28年6月に水ヶ江に開設された内田胃腸科内科に端を発します。

平成15年3月に現在の高木瀬町長瀬に佐賀記念病院として移転しました。標榜診療科は内科、総合診療科、整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻科、小児科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科等で常勤医19名、病床数177床の中規模病院です。平成22年に急性期病棟120床、回復期リハ病棟57床へ病棟再編を行い、現在、急性期病棟は1ヶ月の入院患者数約200名、平均在院日数約15日であり、また回復期リハ病棟の1年間の入院患者数約300名、在宅

【本院との連携】

日頃より佐賀大学医学部附属病院には多くの患者様を受け入れていただき、さらには回復期リハ病棟を含め、多くの患者様をご紹介いただき職員一同心より感謝申し上げます。今後ともご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



専門看護師の役割と活動

●慢性疾患看護専門看護師



看護部 総合外来
永瀧 美樹

本院では、専門的で質の高い看護を提供できるよう、専門看護師・認定看護師の資格取得に力を注いでいます。現在、2名の専門看護師と17名の認定看護師が、それぞれの分野で高度な看護実践や患者さんへの指導、職員内外の看護活動に貢献しています。新しく資格を取得した看護師を紹介いたします。

平成25年度 病院院長賞

平成25年度は、糖尿病看護認定看護師として診療に貢献した下記の職員を表彰いたしました。



糖尿病看護認定看護師
看護部 総合外来
藤井 純子

就任挨拶



眼科学講座
教授 **江内田 寛**

平成26年1月1日をもって、第3代の眼科学講座教授に就任いたしました江内田寛と申します。

一般に情報の80%以上は視覚を通じて得られると言われており、眼は日常生活を送る上で極めて重要な役割を果たしています。その眼の中には時に糖尿病網膜症、緑内障など様々な重篤な病気が生じることがあります。

昔は治療が困難な状態の病気でも、最近の医療技術の進歩により、以前には考えられなかったほどの回復が可能になってきました。したがって患者さんのQOLの維持のために眼科医の果たす役割は大きく、特に今後



病因病態科学講座
教授 **相島 慎一**

平成26年2月1日付で佐賀大学医学部病因病態科学診断病理学分野の教授に就任しました相島慎一でございます。

私が専門とする診断病理学は現代医療を支える不可欠な分野であり、カバーする領域も広く、その重要度は日々増すばかりです。しかしながら社会の認知度はとても低く、医療従事者や医学部の学生でも十分理解されていないと感じることがあります。したがって、学生が病理診断に触れる機会を増やし、病理学講座、病院病理部の体制を整備することが重要であると考えます。一人でも多くの元氣とサービス精神にあふれた、臨床

医に頼られる病理医を育てたいと思います。また病理部門では、亡くなった患者さんの病理解剖も担っています。近年、病理解剖数は激減してきていますが、解剖して初めてわかることは少なくありません。病理解剖は医療水準の向上のために必要であり、医療の最終評価として重要であるだけに、積極的に解剖する体制を構築し、臨床医と共同で診療を検証することが大切だと思っております。

佐賀大学の発展、佐賀県の医療向上のために努力いたしますので、皆さまどうぞよろしくお願いたします。